

以器物爲苗字

名字無之、幸此所柳一本有之間、一ノ柳ヲカタドリ、一柳ト名乗可替ト御申候へバ、河野殿、忝ト被仰、其ヨリ一柳ヲ御名乗被成候由承申候、

〔東照宮御實紀附録六〕樽屋藤左衛門といふは、水野右衛門大夫忠政が七男彌大夫忠頼が子なり、はじめは彌吉康忠といふ、長篠の役に酒樽を奉りしかば、織田右府○信におくらせられ、右府大に喜び樽とよばれしより、氏を樽と改め、遠州町々の支配を命せられしが、○下

〔當世武野俗談〕山彦鳥羽が三絃

山彦源四郎は、江戸節三絃の元祖なり、尤も名人にして、山彦と云ふは三味線の名なり、源四郎は十寸見を名乗る、葉が家に山彦と名附けし三味線有りし故、名字と號、

以由縁爲苗字

〔源平盛衰記 三十三〕大神宮勅使附緒方三郎責平家事

惟義ニハ兄弟三人有ケルガ、次郎ハ死ニヌ、太郎名生三郎、尾形ト云二人ガ中ニ、此三郎ハ蛇ノ子ノ末ヲ繼、ベキ驗ニヤアリケン、後ニ身ニ蛇ノ尾ノ形ト鱗ノ有ケレバ、尾形三郎ト云、

〔鹽尻十〕平岩氏稱號、平岩氏は、三州坂崎の郷人五郎左衛門某郷中に大なる岩、平かなるありしより、平岩と稱號せり、其子新右衛門親重、家を興し、其子從五位下主計頭親吉、大身となると云ふ、按るに、天文の頃、北條家に、平岩隼人正重吉といふ勇士あり、上杉朝成を組留めしものなり、是其同姓か、平岩平石共にひらいはと讀む、古しへよりの稱號のやうに見え侍る、

〔總見記 四〕木下藤吉郎出身由來事

抑此藤吉郎ハ、イカナル者ゾト尋聞クニ、○中其母或時、懷中ニ日輪ノ入ト云夢ヲ見テ、即胎娠シタリケルガ、大樹ノ下ニテ出産ス、其故ニ稚名ヲ日吉ト云ヒ、氏ヲ木下ト號スト云ヘリ、

〔兩朝平攘錄日本四本〕秀吉幼微賤、不知父所出、其母爲人婢得娠、生欲棄之、有異徵、不果棄、及長、勇力踏捷、不事生業、初以販魚、醉臥樹下、信長出獵、吉驚起衝突、欲殺之、復以吉舌辯留之、養馬、名木下人、秀